

◆選んだ理由

ある本に「下流度」、つまり派遣やフリーターなどの非正規社員になる可能性をチェックする10の問いがあった(三浦展『下流社会 第2章』光文社新書)。そこでオヤツと思ったのは、「オリンピックやサッカー・ワールドカップでは心から日本を応援する」という問いと、「中国や韓国はいやだと思えることが多い」という問いである。なぜこれらの問いにイエスなら「下流」になりやすいのか。たぶん、「日本人だから日本を応援して当たり前」というように短絡的に考える人や、マスコミに洗脳され「理由はないがただ何となくいやだ」というような人は「下流」になりやすい、ということだろう。そこで、これまで「高校という井の中の蛙」であった新入生諸君、つまり、周りにそびえる壁で世の中を見えなくされていた諸君は、自分が今ドノヨウナ社会の、ドノヨウナ場所に立っているのか、その立ち位置を知る必要があるだろう。以下は、そのような観点から選んだ本の一部である。

◆働き方:長く働くことは害悪である

怠惰への賛歌

パートランド・ラッセル著

平凡社ライブラリー

/2009

[133.54 || R89]

第2開架閲覧室



経済成長がなければ  
私たちは豊かに  
なれないのだろうか

C. ダグラス・ラミス著

平凡社ライブラリー

/2004

[304 || L96]

第2開架閲覧室



日本では長い間一生懸命に働くことが良しとされてきた。上にあげたパートランド・ラッセルの本は、働き過ぎが失業を生んでいる今ぜひ読んで欲しい。そして知って欲しい、働き方が自分だけの問題ではないことを! 現在、長時間労働が他人の仕事を奪い、女性の社会進出を遅らせ、サラリーマンの鬱病発症の原因になっていることを。旧い経済学者たちはけして、「経済成長がなければ私たちは豊かに成れないのか」という問いを発しない。少しも疑問をもたないのだ。つまり、経済成長のため懸命に働くことをいまだに良しとしているのである。上にあげたC. ダグラス・ラミスの本は面白くタメになる。必読である。

◆金融:バッドマネーとグッドマネー

お金で騙される人、  
騙されない人

副島隆彦著

幻冬舎新書

/2010

[355.7 || So22]

第2開架閲覧室



「価値組」社会

森永卓郎著

角川SSC新書

/2009

[332.106 || Mo57]

第2開架閲覧室



最近、マネーにたいする関心が高い。というよりも、金融を知らない時代に乗り遅れるような雰囲気を作られているのだ。狙いはタンス預金を金融ゲームにつぎ込ませるためである。しかしこの30年は金融「戦国時代」である。つまり、プレイヤーは金融大名(金融資本)であって庶民はあくまでも年貢を納める領民にすぎないのだ。プロが行う金融ゲームは他人の資産をかすめ取ることを目的とするものであり(バッドマネー)、それ以前の、関係者がそれぞれの努力に応じて潤うような仕組み(グッドマネー)ではない。いいかげんな評論家にだまされてはならない。上にあげた副島隆彦の本と森永卓郎の本は自分の身を守るために必読である。

◆税金:消費税は0%にできる

消費税は0%にできる

菊池英博著

ダイヤモンド社

/2009

[339.21 || Ki24]

第2開架閲覧室



消費税25%で  
世界一幸せな国  
デンマークの暮らし

ケンジ・ステファン・スズキ著

角川SSC新書/2010

[369.023 || St3]

第2開架閲覧室



いま大新聞の紙面には「日本の消費税は外国に比しても低い」、「子孫に赤字を残さないために消費税引き上げは仕方がない」という言葉が踊っている。しかしこの2つともウソである。生活必需品に消費

税をかけている日本の消費税率は高いし、財政赤字は埋蔵金(特別会計)でまかなうことができる。もうだいぶ前から新聞とテレビは正しい情報を伝えていない。今はホントウの情報を自分で集めなくてはならない時代なのだ。マスコミは上にあげた菊地英博の本を無視しているが必読書である。これを読まずして日本の財政を語ることはできない。そして、「社会保障のために消費税アップを」という言葉にだまされてはならない。ここではデンマークの経験が役に立つ。上にあげたケンジ・ステファン・スズキの本から、高福祉の仕組みが先行してはじめて消費税引き上げを議論すべきことが分かる。

◆未来:美し国、日本

誰が日本を支配するのか!?

佐藤優・魚住昭 編

マガジンハウス/2010

[312.1 || Se17]

[319.8 || O52]

[327.13 || Ke51]

第2開架閲覧室



逝きし世の面影

渡辺京二著

平凡社ライブラリー

/2005

[210.58 || W46]

第2開架閲覧室



現在の格差社会は小泉改革が原因である。それまで禁止されていた製造業への労働者派遣を解禁し、低賃金労働を合法化したからである。しかし不思議なことに当時、小泉政権は若者から圧倒的な支持をうけた。彼らの多くが後に不正規社員になるというのに。つまり、当時の若者たちは無知のせいで自分の首を絞める政権を、「改革を」というワン・フレーズだけで支持したのである。それゆえ若者はどんな時も目を大きく開いて、自分たちがドノヨウナ時代にいるのか知って行動すべきである。まずこれまでの常識を打ち破る必要がある。そのためには、佐藤優と魚住昭が編集した上の本が参考になる。また、上にあげた渡辺京二の本はもっと長いスパンで現在を知るために必読である。そこにはこの数十年で毀されてしまった、美し国日本の原型が示されている。それは同時にこれから再生すべき日本の姿でもある。